

第1学年 国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
学 級：第1学年〇組 〇名
場 所：1年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇

1 単元名（題材名）

「イチオシの心に迫る描写」を伝えよう。
（「大人になれなかった弟たちに……」 光村図書 第1学年）

2 単元（題材）の目標【育成を目指す資質・能力】

- ・学習の見通しをもって自分なりに文章を読み、描写の仕方に注目して人物の心情に迫ることで、物語のよさを感じ、魅力を伝えようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・文章の構成や展開、表現の工夫や効果について自分の考えをもつことができる。（読むこと エ）
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつ。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ（ウ））

3 単元について

（1） 児童生徒の実態

1学期からグループ学習に取り組む中で、分からないなりに自分で読んで考え、考えたことを交流し、自分の考えが広がることを楽しいと感じる生徒も増えてきた。しかし、学年には支援が必要な生徒が多く、文章を読むことに苦手意識をもっている生徒も多い。読書の大切さも理解しているが、朝読書以外には読まないという生徒も多い。そこで、おすすめの本の「心に迫る描写」を紹介することを通して、作品を読んで深い理解や感動を得ることができるようになりたいと考えた。

描写を基に登場人物の心情を捉えることは、小学校や1学期の物語学習でもしているが、表現の効果を意識するところまではできていない。今回は、描写の仕方や述べ方を根拠に表現の効果を捉えることを意識できるようにする。また、自分が捉えた描写やそこから感じたことを交流することで作品の魅力を感じ、自分の考えをさらに広げたり、深めたりすることができるようにする。

（2） 教材について

この単元で学習する「大人になれなかった弟たちに……」は戦争下という状況について確認し、場面を想像できるようにする必要がある。戦争という不条理な世の中で、登場人物のおかれた状況や心情を想像し、迫ることで、その中で生きる人間の美しさ、やるせなさを見つめ直せる教材である。また、人物の行動や情景描写が心情を反映している優れた描写の多い作品である。描写から、作品の魅力を感じることができるようにする。

（3） 指導について

4月には、「花曇りの向こう」で冒頭と結末に着目して人物の気持ちの変化を捉えたり、題名から主題を考えたりした。直前に学習した「星の花が降るころに」では、場面の展開から人物の気持ちの変化を捉えた。その中で、ある程度、描写に注目して文学作品を読むことはできてきている。今回の単元では、さらに人物のおかれている状況を捉えた上で、登場人物の行動や情景描写など、直接心情を描いているわけではない描写に注目して心情を捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつことを通して、作品の魅力に迫ることができるようになりたい。

(4) 「読み解く力」に関わる目指す生徒の姿とその育成のための手立て

本単元は、文章の表現の特徴について、自分の考えをもつことをねらいとしている。そこで、「心に迫る描写」とその根拠について、描写の工夫や効果に注目して自分の考えをもつことができる姿を目指す(A③)。そのためには、まず教材文から「心に迫る描写」を見つけることができる姿が必要である(A①)。「描写とは何か」やその種類について理解できるようにし、文章中の描写に着目できるようにする。また、「心に迫る描写」を見つけることができるように、教材文の内容を捉え、それと結び付けて考えることができるようにする。次に自分が選んだ「心に迫る描写」の根拠を、複数の描写とそこからの解釈を手がかりにまとめることができる姿を目指す(A②)。いきなり根拠をまとめることは難しいことが想定されるため、問題解決に向けてみんなで学ぶ時間と、学んだことを生かす時間を設定し、複数の描写を結び付けて根拠をまとめることができるようにする。

また、より適切な根拠になるように、他者とのやりとりを行う。その中で、根拠として「どの描写に注目しているのか」「そこからどのように解釈しているのか」等必要な情報を捉え(B①)、「なぜその描写に注目したのか」「なぜそのように解釈したのか」等、理由や意図も理解し、やりとりの中から自分の根拠に生かすことができる情報を見つけ(B③)、自分の考えを再構築することができる姿を目指す。そのために同じ描写に注目した生徒でグループをつくり、根拠を交流できるようにする。また、自分の根拠をよりよいものにするという目的を明確にもたせて交流に取り組めるようにする。さらに、自分との共通点や相違点に注目できるように、他者の考えを記録できる手立てをとる。

4 単元(題材)の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<u>自分の心に迫った表現に注目して作品を読み、作品の魅力を伝えようとしている。</u>	<u>自分なりに描写の仕方や述べ方に注目して登場人物の心情に迫り、表現の効果について捉える。</u>	<u>事象や行為を表す語に注目し、語彙を増やすことができる。</u>

5 単元の指導と評価の計画(全6時間)

時	主たる学習活動	指導上の留意点(・)	評価規準(□)
1	学習への目的意識、見通しをもつ。 ・ これまでに学習した物語を読むコツを整理し、物語の魅力の一つに描写のすばらしさがあることに気付く。 ・ 単元のゴールイメージをもつ。 ・ 「大人になれなかった弟たちに…」を読み、「心に迫る描写」とその理由を書く。	・ 既習の「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」の読み取りのコツ(題名から主題を追求する。場面の展開から人物の心情の変化を捉える。独特の表現から人物の心情を捉える。)を思い出す。 ・ 「心に迫る描写」を紹介するために作品の魅力を描写を根拠に伝えられるようになる。 ・ <u>注目した描写や、作品の魅力を伝えるためにみんなで考えたい場面、描写を中心に書く。</u>	□既習の読み取りのコツを整理しようとしている。(関) □分からない言葉や表現をチェックしている。(言) □自分なりに物語の表現に注目している。(読)

2	<p>課題解決に向けて、必要な知識を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「心に迫る描写」を紹介するために必要な学習を考え、単元の見通しをもつ。 描写のもつ効果について考える。 あらすじを捉え、作者が何を伝えたかったのか、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「心に迫る描写」を紹介するために人物の心情や人物の置かれた状況を押さえることを確認する。 描写には「物事の様子や場面の様子、登場人物の行動や心情を読み手が具体的に想像できる」「話を通して書き手が伝えたかったことを、強く伝えることができる」等の効果があることを知る。 人物、時代背景をしっかりと押さえることで、作者の伝えたいことを考え、学習への意欲付けにする。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>学習の見通しをもとうとしている。(関) <input type="checkbox"/>描写のもつ効果について理解している。(読) <input type="checkbox"/>分からない言葉や表現について理解している。(言)
3	<p>課題解決に向け、みんなで学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>前半部分で人物のおかれた状況や心情などの根拠を挙げて「心に迫る描写」を探す。</u> ペアまたはグループで考えを共有し、どんな描写に注目できるとよいのか話し合う。 全体でどんな描写に注目できるとよいのか共有する。 再度、教材文を読み、「心に迫る描写」を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 前半部分で「心に迫る描写」を選び、その理由をまとめることを通して、課題解決に必要な見方・考え方を身に付ける。 個人で困っている場合、ペアやグループで交流し、意見が出やすくする。 <u>全体で交流することで、どんな描写に注目できるとよいのか、考えをまとめる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>自分の気になった描写に注目し、そのよさを紹介している。(読) <input type="checkbox"/>注目した描写の根拠として、人物の置かれた状況や人物の心情に迫れている。(読) <input type="checkbox"/>自分の語彙になかった言葉も文脈の中で理解している。(言)
4	<p>前回の学びを活用し、確かにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 後半部分で「心に迫る描写」とその根拠を探し、グループで交流する。 グループで解決できなかったことを全体で解決する。 教材文全体を通して、「イチオシの心に迫る描写」を選び、自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回学習した視点で描写を選んだり、理由をまとめたりすることができているか確かめる。 <u>グループで解決できなかったことを、全体で共有し、考える。</u> 学習してきたことを生かし、自分が一番「心に迫る」と感じた描写を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>自分の気になった描写に注目し、そのよさを紹介している。(読) <input type="checkbox"/>注目した描写の根拠として、人物の置かれた状況や人物の心情に迫れている。(読) <input type="checkbox"/>自分の語彙になかった言葉も文脈の中で理解している。(言)
5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> この作品の「イチオシの心に迫る描写」を選び、根拠を挙げて紹介できるようにする。 同じ描写を選んだ人とグループで交流する。 交流を受け、自分の「イチオシの心に迫る描写」とその 	<ul style="list-style-type: none"> <u>「心に迫る描写」の根拠として人物の心情やその場の状況がわかることなど、作品の魅力について触れてまとめられるようにする。</u> <u>「よりよい根拠にする」ためにお互いの共通点や相違点に注目させる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>表現の効果について考えることで、物語のよさを味わっている。(読) <input type="checkbox"/>自分の選んだ「心に迫る描写」のよさを人に伝えようとしている。(関)

	根拠をまとめ、発表の準備をする。		
6	<ul style="list-style-type: none"> 自分の「イチオシの心に迫る描写」を発表する。 単元での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>他の人が選んだ表現を聞き、自分の意見と比較しながら考えを深める。</u> 	<input type="checkbox"/> 自分の気になった描写に注目し、そのよさを紹介しようとしている。(関) <input type="checkbox"/> 表現がもたらす作品の魅力について、自分の考えをもっている。(読)

6 本時の目標（本時：5/6時間目）

- 描写の仕方や表現の効果などを根拠として作品の魅力を自分の言葉でまとめることができる。

7 本時の評価規準

- 根拠を挙げながら作品の魅力を述べている。

8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの振り返りをする。 ねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した物語を読むこつを掲示物で視覚支援をする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 「大人になれなかった弟たちに……」の自分の「イチオシの心に迫る描写」を選び、根拠を挙げて紹介できるようにまとめる。 「イチオシの心に迫る描写」の説得力を出し、「よりよい根拠にする」ために、同じ描写を選んだ人とグループで交流する。 交流を受け、自分の「イチオシの心に迫る描写」とその根拠をまとめ、発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に選んだ、教材全体を通しての「心に迫る描写」と、その根拠を説明できるようにする。 <input type="checkbox"/> 「心に迫る描写」の根拠として人物の心情やその場の状況がわかることなど、作品の魅力について触れてまとめている。 <u>自分と同じような表現を選んだ人と交流し、共通点や相違点に注目し、意見を言い合い、「なるほど」と思った意見をプリントに書き込む。</u> <input type="checkbox"/> 自分の意見を根拠を挙げて説明している。 <input type="checkbox"/> 交流を通して、自分の意見をより深めている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> 振り返って学んだことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>他の人の意見を聞き、考えが広がったこと、新たに見つけた作品のよさについてまとめる。</u>

9 授業参観の視点

前時までに学んだことを生かし、根拠を挙げて「心に迫る描写」をまとめられたか。A③

人の意見を聞くことで、自分が「心に迫る描写」だと思った根拠を明確にしているか。B③